



○ 叱るなら笑いを交えて！ 生徒の心に伝わるほうが・・・。

気持ちを立て直すのが難しい子や、友達へのちょっかいがやめられない子、さまざまな生徒と
長年向き合ってきた現役の教員が、子供の目線から「こんなふうには叱って」という要望を描いた
絵本が人気を集めています。「笑いを交えた叱り方なら子供たちも素直に聞ける。教員だけでなく
子育てに迷う人にも絵本を読んで力を抜いてもらいたい」との願いを込めたそうです。絵本は「ぼく、
わたしのトリセツ」で、文章を手がけた松下 隼 司さん(43)は大阪市北区の市立豊仁小学校で
3年生の担任を務めています。昨年12月に予約販売を始めたところ、好評だったことから今年6月
に書籍化されました。絵本に登場するのは、自分の非を認めることができずすねる男児や、あらゆ
ることを嫌がり素直になれない女児だ。愛嬌はあるが指導にてこずりそうな、どの教室にもいそうな
子供たちです。松下さんがこれまでに出会った教え子がモデルになっています。「おねがいがあります」
と子供が自らの“取り扱い方”を切り出すのが特徴です。「ケンカした子と向かいあわせにして、は
なしをきくのはやめて」という男児は余計に興奮してしまうからだと言明し、隣同士で座らせてほし
いと訴えています。素直になれず、指示を聞けない子は「『コラ!』と、どなりたいきもちわかります。
間に『ア』を入れて『コラア!』とどなってください」。すねてしまう子は「きゅうしよくのじかんに、きい
てあげてください。すごーくスムーズに、かいけつします」と主張しています。子供たちからの“要望”
は分かりやすく、くすっと笑えるような内容もあり、叱る側も冷静になれそうだ。もともと怒りっぽい
性格で、真剣に子供と向き合うあまり熱くなってしまうこともあった松下さん。誰かを叱った後の教室

は重苦しい雰囲気おもくる ふんいきに包まれ、叱しかられていない児童じどう ひょうじょうの表情へいじょうまでもが暗くらくなります。「心こころがすーっと離はなれていくのを感じかんた」と。焦あせる気持ちきもちから、怒いかりの感情かんじょうを抑おさえる「アンガーマネジメント」の講師資格こうししかくを取得しゅとくしたり、勉強会べんきょうかいに参加さんかしたりしたものの思おもうように生いかせなかつた経験けいけんがある。だが、叱しかる際さいに笑わらいをまじえれば子供こどもも気持ちきもちが落ち着おちつきき、拍子ひょうしゆ抜けするほどすんなり指導しどうを受け入うけたそうです。絵本えほんで紹介かいした声掛こえかけの言葉ことばの大半たいはんは試行錯誤しこうさくごしながら見みつけたフレーズだ。世よの中には多くおおくのトリセツとりせつ（取扱説明書とりあつかいせつめいしょ）本ほんがあるが、「どれも扱あつかう側がわから目線めせん。扱あつかわれる側がわの子供こどもの目線めせんを大切にたいせつにした」と松下まつしたさん。「怒おこってばかりの大人おとなも怒おこられてばかりの子供こどもも両方りょうほう笑顔えがおになれば」と話はなしています。

私わたしも、教室きょうしつで強つよくく生徒せいとを指導しどうした時ときに、教室きょうしつの雰囲気ふんいきが悪わるくくなり、「あー、もっとよい言葉ことばを言いえればよかつた」と反省はんせいすることが度々たびたびありました。もしよかつたら、絵本えほん「ぼく、わたしのトリセツ」、読よんでみませんか？ 私わたし自身のトリセツも書かいておこ
うと・・・。

じぶん がか こんなん かく せいと
自分が抱かかえている困難こんなんを隠かくしている生徒せいとがいます

もんだいこうどう おお ばあい せいと がか こんなん えいきょう
問題行動もんだいこうどうは多くの場合おお、生徒せいとが抱かかえている困難こんなんが影えいきょう響きょうしています

いしき せいと たいおう
それを意識いしきして生徒せいとに対応たいおうしましょう

せんせいがた えがお すく せいと
先生方せんせいがたの笑顔えがおで救すくわれる生徒せいとがいます！！！！